

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより **16** 号



青山学院資料センターが所蔵する主に明治・大正期に発行されたキリスト教排撃書。詳細は本文p4～5の資料センター所蔵資料紹介をご覧ください。

青山学院史探訪

今、改めて國澤新兵衛～教会史の側面から～ 川俣 茂 — 2

資料センター所蔵資料紹介

明治期の「耶穌」排斥史料について 氣賀健生 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内 — 8

今、改めて國澤新兵衛 ～一教会史の側面から～

清教学園中・高等学校 中学校宗教主事 川俣 茂

國澤新兵衛（1864～1953）。南満州鉄道株式会社（以下、「満鉄」）の歴史に於いて、創設当初からの技術系理事として、副総裁、そして総裁にあたる「理事長」として、社史に必ず登場する人物である。ただ、青山学院の歴史に於いては、「院長事務取扱」を務めたほどの人物でありながら、残念ながらその名が埋もれてしまった人物であろう。しかし「國澤がいなかったら、青山学院の今日はあったらどうか」と問われれば、「否」と言い切れる存在であったともいえるだろう。

國澤が青山学院院長事務取扱を務めたのは、1943（昭和18）年6月に第7代院長笹森順造が退任後、9月に第8代院長小野徳三郎が就任するまでの約3ヶ月間、文字通りの「中継ぎ」としてであった。青山学院にとっても暗雲立ち込めるこの1943年、この「中継ぎ」が果たした役割は非常に大きいものがある。國澤と青山学院については、気賀健生先生が『青山学報』に既書いておられるので、そちらをご覧ください（気賀健生「青山学院の歴史を支えた人々（その四）－國澤新兵衛」、『青山学報』151号、1990、102－103頁）。

本稿は青山学院に於ける國澤について記すことが目的ではない。場所は大連、時は國澤が満鉄副総裁在任時の1913（大正2）年までさかのぼることとしよう。

大連の街にはいくつか教会があった。その中で最も歴史が古く、規模も大きかったのが日本基督教会の「大連日本基督教会」、通称「西広場教会」である（以下、「西広場教会」）。この教会は植村正久の命を受けた日正信亮（ひびきのぶすけ・富士見町教会員・満州軍倉庫長）が、部下として15名のキリスト者を召集、倉庫本部で日曜礼拝・金曜祈祷会を開始した1904（明治37）年が出発点となっている。以来、この地域に於ける拠点教会として大きな存在感を放っていた。

余談になるが、この西広場教会は、三好（後に三吉）務という、1927（昭和2）年に富士見町教会に転任した牧師が牧会した日本基督教会の

教会でありながら、1908（明治41）年、留学のために三好が辞任した後、その後任招聘には大変苦勞したらしい。後任候補として名が挙げられた牧師の1人に鵜飼猛がいる（鵜飼猛は鵜飼信成国際基督教大学名誉教授・元青山学院理事、鵜飼勇日本基督教団銀座教会名誉牧師・元青山学院理事の父）。鵜飼は当時日本メソヂスト教会の教職でありながら、無任所であった。1910（明治43）年3月27日の教会総会で、招聘状を出すと決定していたが、7月24日の教会総会では鵜飼招聘が不可能になったことが報告されている。鵜飼が同じ4月に日本メソヂスト銀座教会に任命を受けたため、実現しなかった。実現していたら実現していたらで、日本のキリスト教史に残る一大出来事となったであろう。この件を鵜飼牧師に申し上げたところ、「へえ…。そんなことがあったんだね。日曜学校協会の関係なのかなあ…。でも日基とメソでねえ…」と大変不思議がっておられた。

さて、本題に戻ろう。大連郊外に「沙河口」という街がある。満鉄大連工場や満鉄の社宅が立ち並ぶ、まさに満鉄の街であった。この沙河口に西広場教会は枝教会を建設しようとしており、1914（大正3）年、西広場教会総会は「沙河口講究所建設の件」を承認、「沙河口講義所建設趣意書」を配布し、幅広い献金・寄附によってこの講義所を建設しようとした。この「沙河口講義所建設趣意書」に記されている賛助員には、大阪商船大連支店関係者、地元新聞社長、大連海関税務司など、錚々たるメンバーが名を連ねているが、その賛助員の中に國澤新兵衛の名がある。しかも教会用地取得にあたっては大きな役割を果たすのである。

沙河口教会となる土地は満鉄大連工場入口近くであったが、そもそも満鉄大連工場用地は満鉄が関東都督府から貸し下げられた土地であった。三好牧師はこの土地を満鉄から関東都督府に一旦返還してもらい、その土地を改めて都督府から教会に貸し下げるという方法が最良と考え、國澤に要請、國澤が賛意を示したことで、



写真と直筆サイン 満鉄理事長(総裁)在任時の大正7年大連にて撮影

都督府から教会にという方法によって424坪の土地が貸し下げられることになった。

一教会のためにここまで満鉄が、いや副総裁である國澤が動くとなれば、現代流にいうならば「付度」ということになってしまうのかもしれないが、実はそうとも言い切れない部分がある。満鉄はいわゆる付属地等のインフラ整備には非常に熱心で、西広場教会が幼稚園を創立する際、満鉄は3000円を寄付している。これは幼稚園創設時収入の約1割にあたる。また満鉄はその業務の性質・地域性などもあり、社員の福利厚生に関しては、かなり深く意を用いていた部分がある。「沙河口講義所建設趣意書」にも、「沙河口は大連市の西三哩に於ける新市街にして満鉄工場のある所なり、開設日尚浅しと雖も之れが職員工人を首め同胞の居住するもの約三千人、猶将来益々隆盛ならんとす(中略)是実に彼等が堅実なる宗教的指導と精神的慰安を要するの所以なりと信ず」と記されているように、「実に彼等が堅実なる宗教的指導と精神的慰安を要する」が故に、教会建設に協力するというスタンスであった。初期の大連民政署長であった関屋貞三郎の次のような発言がある。

「大連で日匹(原文ママ)さんと云う人が、最も基督教の熱心な信者ですがそれからでもあり

ますけれども、そう云う方面に非常に力を入れまして、只今の大連の聖愛病院、大連民政病院及び教会を造りました、今の西広場に教会がありますが、その時に出来たのです、そう云うことに非常に力を入れましたが、私が矢張り基督教許りではないが、教会と云うようなものを造ることが甚だ必要である、人心の安定の上に必要である云うので、(中略)私は出来るだけ便宜を与えたいと思って許したが、(中略)然し矢張り日匹(原文ママ)さん等が居って熱心にやられたので、我々もそれを寧ろ受身になって便宜を与えたと云うに過ぎない、

(井上謙三郎編『大連市史』、地久館、復刻版1989、298-299頁)

確かにこの出来事は、「受身」かもしれないが、「満鉄副総裁」という「立場」に基づいた、その生涯をささげた満鉄の方針に沿った國澤の行動だということができよう。しかしそれだけではないと私は考えている。以下はあくまでも推測の域を出ないが、若き日に東京・横浜で出会ったもの、それは「鉄道」と「美會神学校(=青山学院)」だった。いずれも自らが生涯関わることになるものであると同時に、「原点」ともなるものでもあった。とすると、「沙河口講義所建設趣意書」に名を連ねた國澤の心の中には、自身自身のバックボーンともなっている美會神学校で学んだ、あの若き日々があったのではないだろうか。「満鉄副総裁」が「公」とするならば、「美會神学校卒業生」は「私」にあたるのだろうか、「自分の原点はどこなのか」と考えた時、その原点の一つを「美會神学校」に見出していたからではなからうか。青山学院院長事務取扱就任にしても同様だったのだろうか。これは裏返せば、わずか3年で東京英学校と合同してしまっただが、「美會神学校」の「教育の成果」ともいうことができるのではないか。それは小さなことかもしれないが、時代的には異なっているものの、「地の塩、世の光」という青山学院のスクールモットーの証しの一つ、いや証しの先駆ともなっているといえるのではないだろうか。

〈参考文献〉

柴田博陽編『大連日本基督教会沿革誌』、大連日本基督教会、1927

西広場教会の思い出編集委員会編『西広場教会の思い出』、大連西広場の会、1991

明治期の「耶蘇」排斥史料について

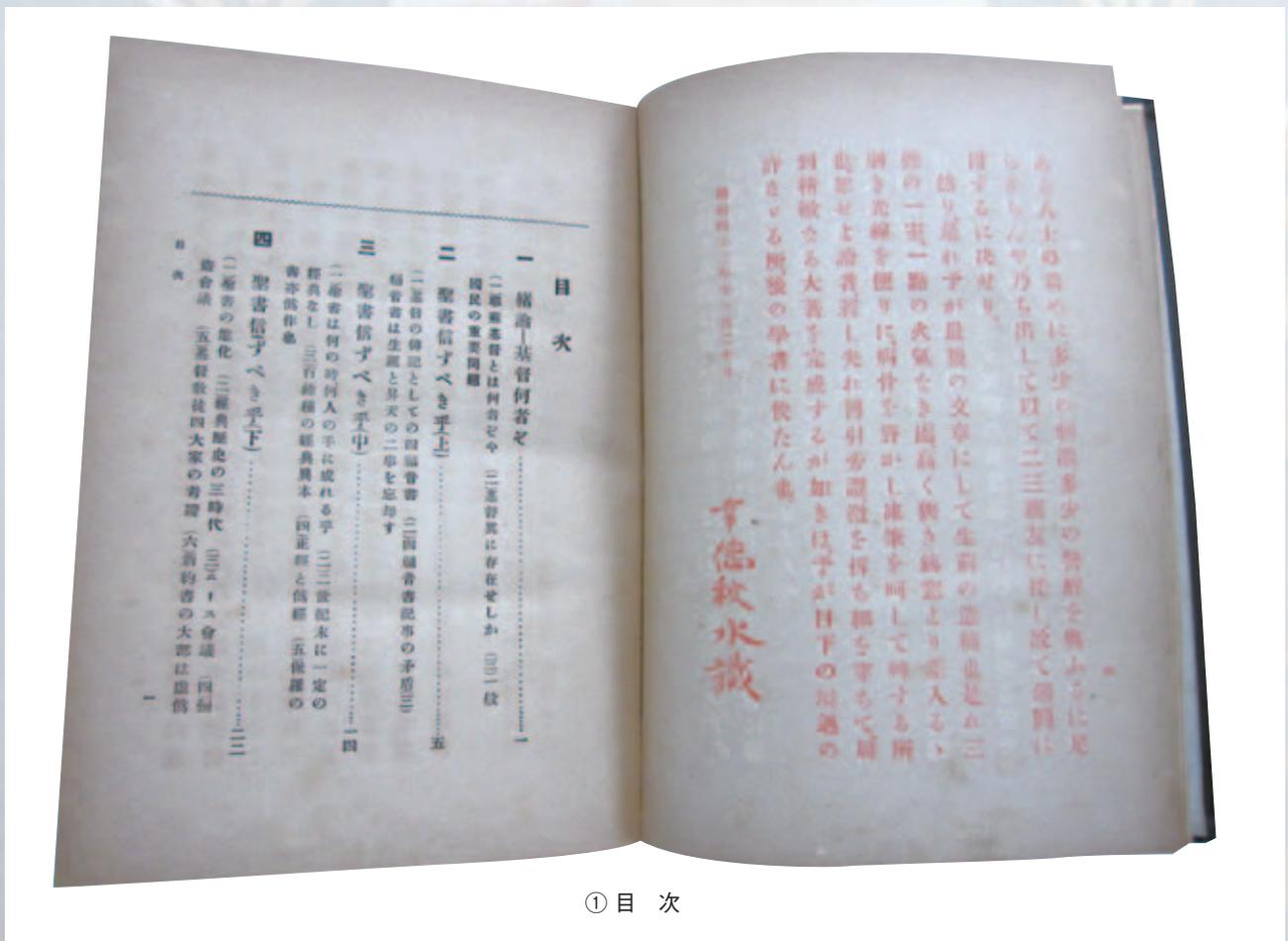
青山学院大学名誉教授 氣賀健生

青山学院資料センターが所蔵している膨大な文献・史料の中には、日本でも或いは世界でも珍しい稀覯本も少なくありません。当然のことながらこれらは主としてキリスト教関係の文献・史料であります。

ところで今回は、明治初期を中心としてキリスト教が日本に紹介された当時の世論がどのようなであったかを考えてみたいと思います。

当時「耶蘇」と呼ばれたキリスト教は、新しく入って来た宗教であっただけに、数々の攻撃に遭って来ました。その様子が手に取るように解るのが、ここに紹介する文献・史料群であります。

新撰 斥耶蘇	元治7 (1864)
笑耶蘇論	明治2 (1869)
耶蘇一代辨妄記 初・上・下	明治7 (1874)
耶蘇教國害論	明治14 (1881)
耶蘇教の無道理 第一～三編	明治14 (1881)
駁邪論	明治14 (1881)
耶蘇教大敗北	明治23 (1890)
耶蘇教末路	明治26 (1893)
耶蘇教の危機	明治26 (1893)
耶蘇教亡國論	明治26 (1893)
耶蘇教非公認論	明治32 (1899)
排耶蘇教	明治32 (1899)
白粉を洗い落したる耶蘇	明治35 (1902)



① 目次

基督抹殺論	明治44 (1911)
滑稽耶蘇退治 再版	明治29 (1896)
耶蘇教意問答上・下	明治8 (1875)
耶蘇教秘密説	明治8 (1875)
斥邪漫筆 全3巻	

以上は当資料センター所蔵の歴大な「耶蘇」資料コレクションのほんの一部ですが、これらの表題を見ただけでも当時のキリスト教に対する日本の言論界の空気・雰囲気の一斑が想像できるのではないのでしょうか。

今回は上記の文献のうちから幸徳秋水著「基督抹殺論」をとりあげ、彼のキリスト及びキリスト教抹殺の論理を瞥見してみましょう。

幸徳秋水は本名伝次郎。明治期、中江兆民門下の社会主義・無政府主義者。明治天皇暗殺を画した所謂大逆事件の首謀者として1910年検挙され、11年(明治44年)1月24日処刑されました。この時獄中で「基督抹殺論」を完成。死後高島米峰によって刊行されました。西洋における研究の成果を踏まえてキリスト教を批判し、キリストの存在を抹殺しようとしたものでありました。

彼はジョセフ・ルナンその他キリスト教研究学者の諸説をあげて、いづれも四福音書がマタイ・マルコ・ルカ・ヨハネの手になるものではなく、第2世紀後半以後、教会の必要に應ずるために口碑伝説を補綴し、私意を加えて書かれたものである、ということによって一致している、と言っています。そのように見てくると、現在の新約全書が、すくなくともその大部分が、虚妄偽作のものだと判断しても、決して公平を欠くことはないと信ずると、幸徳秋水は断言しています。

そしてキリストの実体について彼はこのように断言します。キリストが血肉をそなえた人間として、嘗て一度たりともこの世界に存在したという証拠はない。キリスト教の根拠とする所



②本文

は、その理想を人間化するものである、と。四福音書にキリスト教の開祖として書いてあるのは、一種の信仰理想の人格化した者としての外、何の必然性もない、と。キリストが今日言われる如き名声と伝記は、何に基づいているのか。他でもない、古代東方各地各國民の間で行われた各種の神話を材料としてこれらからとったものを混和し捏造しただけのものである一として例を無数に挙げています。

以上のように150ページに及ぶキリスト及びキリスト教排斥の文章の末に、次のような一文を以て、この「基督抹殺論」を終っています。

「予は下の宣言を以て擱筆す。曰く、基督教徒が基督を以て史的人物となし、その伝記を以て史的事実となすは迷妄なり虚偽なり。迷妄は進歩を礙げ虚偽は世道を害す。断じて之を許すべからず。即ち彼が假面を奪い、粉粧を剥ぎて其真相実体を暴露し、之を世界歴史の上より抹殺し去ることを宣言す。」と。

以上、幸徳秋水「基督抹殺論」を例にとって、明治期日本の言論界の「耶蘇」及び「耶蘇教」に対する空気・雰囲気の一斑を紹介致しました。以来約1世紀もたたない今日のキリスト教理解との差異に驚かれるものと思います。

2016年度後期利用状況

1. 月別利用者数 () 内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
展示見学者数		242	(158)	153	(204)	101	(35)	174	(70)	49	(53)	228	(164)	947	(684)
ボックスキャナ利用		0	0	0	(3)	0	0	0	(1)	0	0	0	0	0	(4)
3Dスキャナ利用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(6)	0	(6)
3Dプリンタ利用		0	0	0	(11)	0	(5)	0	0	0	0	0	0	0	(16)
資料閲覧者数		14	(13)	15	(11)	13	(6)	14	(12)	14	(15)	17	(15)	87	(72)
閲覧者の区分	本学学生	1	0	3	(1)	0	0	0	0	0	(1)	0	0	4	(2)
	現教職員	4	(8)	2	(3)	2	(2)	2	(6)	2	(4)	2	(3)	14	(26)
	旧教職員	6	0	6	(5)	8	0	9	(3)	7	(5)	8	(3)	44	(16)
	校友	0	(4)	0	0	0	(2)	0	(1)	3	(2)	1	(1)	4	(10)
	他大学教員	0	(1)	0	0	1	(1)	1	0	2	0	3	(2)	7	(4)
	牧師	0	0	2	0	0	0	0	0	0	(1)	0	0	2	(1)
	一般	3	0	2	(2)	2	(1)	2	(1)	0	(2)	3	(6)	12	(12)
利用の目的	教会史編集	0	0	0	(2)	1	0	0	(1)	1	(1)	0	0	2	(4)
	学校史編集	6	0	5	0	7	(1)	9	0	9	(3)	8	(2)	44	(6)
	著述・論文作成	2	(3)	5	(5)	3	(2)	2	(6)	2	(5)	3	(5)	17	(26)
	伝記資料調査	0	0	0	(2)	1	0	0	(1)	1	(1)	2	(5)	4	(9)
	記録類の調査・研究	2	(1)	2	(1)	0	(1)	3	(1)	1	(2)	1	(1)	9	(7)
	その他	5	(9)	2	(2)	2	(2)	0	(3)	2	(3)	3	(3)	14	(22)
資料の種類	青山学院史関係 (AA)	9	(8)	8	(3)	11	(2)	12	(7)	10	(11)	16	(11)	66	(42)
	メソジスト教会関係 (B)	0	0	3	0	0	(1)	0	(2)	2	(1)	2	(4)	7	(8)
	英語・英文学関係 (HF)	0	0	0	0	0	(1)	0	(1)	0	(1)	0	0	0	(3)
	明治期キリスト教関係 (G)	1	(1)	3	(5)	1	0	0	0	1	0	0	0	6	(6)
	一般分類図書	3	(2)	2	(1)	2	0	4	0	1	0	0	(2)	12	(5)
	その他	1	(2)	0	(1)	0	0	0	(1)	1	(2)	0	0	2	(6)
	図書	54	(23)	42	(40)	46	(11)	30	(37)	34	(44)	58	(51)	264	(206)
資料の形態 (閲覧点数)	マイクロフィルム	0	(2)	0	(2)	0	(2)	0	0	0	0	0	(2)	0	(8)
	写真(含ネガ)	0	0	0	0	0	0	0	0	(7)	0	(29)	0	0	(36)
	アルバム	1	(13)	0	(4)	0	0	50	0	0	0	0	0	51	(17)
	個人資料ファイル	0	0	0	(1)	1	(1)	0	(2)	1	(1)	2	(41)	4	(46)
	ビデオ・DVD等	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)	0	(2)
	その他	5	0	0	(2)	0	0	0	(5)	0	0	0	0	5	(7)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数 () 内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
件数		7	(11)	6	(11)	4	(14)	3	(18)	5	(14)	3	(10)	28	(78)
質問者の区分	学生	0	0	0	0	0	0	0	(1)	0	0	0	0	0	(1)
	現教職員	4	(2)	1	(9)	1	(9)	0	(10)	3	(5)	2	(4)	11	(39)
	旧教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	1	(1)	1	0	2	(1)
	校友	3	(4)	0	0	2	(2)	0	(1)	0	0	0	(1)	5	(8)
	一般	0	(5)	5	(2)	1	(3)	3	(6)	1	(8)	0	(5)	10	(29)
質問内容	文献所蔵調査	1	(3)	2	0	2	(2)	0	(1)	3	(3)	1	(2)	9	(11)
	写真所蔵調査	2	(3)	1	0	0	(6)	1	(5)	0	(2)	0	(1)	4	(17)
	事項調査	4	(4)	3	(9)	1	(6)	0	(11)	2	(9)	1	(7)	11	(46)
	その他	0	(1)	0	(1)	1	0	2	(1)	0	0	1	0	4	(3)

3. 日誌抄



2016年10月

- ・来客 13人
- ・博物館実習 模擬展示公開 (10/25~11/3)
- ・展示見学 初等部生徒 1クラス
- ・展示グループ見学 キリスト教活動担当事務職員会議参加者 25人
- ・アジアキリスト教保育連盟の方々約40人に本部礼拝堂を案内
- ・卒業生のグループ5人に展示ホール、本部礼拝堂等案内
- ・テレビ放映の為、所蔵資料撮影
- ・人事部主催研修において職員のためのレクチャー担当 15分間
- ・第19回展示検討小委員会開催
- ・2016年度第2回 資料センター運営委員会開催
- ・大学名誉教授、年史関連資料調査のため来室 5回

- ・大学教授、年史編纂のため来室 8回
- ・150年史編纂のため初等部所蔵資料調査
- ・150年史編纂事務定例打ち合わせ会開催

11月

- ・来客 12人
- ・展示見学 史学科学学生授業 25人
- ・グループ見学 キリスト教学校教育同盟校代表者会議出席者 20人
- ・大学名誉教授 原稿作成のため来室 4回
- ・人事部主催研修において職員のためのレクチャー担当 15分間
- ・大学名誉教授、年史関連資料調査のため来室 3回
- ・大学教授、年史編纂のため来室 5回
- ・150年史編纂のため、東京神学大学へ資料調査
- ・150年史編纂事務定例打ち合わせ会開催

12月

- ・来客 4人
- ・展示見学 初等部1年梅組 31人
- ・大学名誉教授 原稿作成のため来室 2回

- ・人事部主催研修において職員のためのレクチャー担当 15分間
- ・大学名誉教授、年史関連資料調査のため来室 4回
- ・大学教授、年史編纂のため来室 5回
- ・150年史編纂のため、中等部所蔵資料について打合せ

2017年1月

- ・来客 13人
- ・グループ見学 立教学院の留学生ほか 16人
- ・グループ見学 韓国のメソジスト教会系神学校関係者
- ・大学名誉教授原稿作成のため来室
- ・資料センター職員、お茶の水女子大学へ展示見学
- ・第20回 展示検討小委員会開催
- ・大学図書館へG分類図書の整理依頼
- ・大学名誉教授 年史関連資料調査 6回
- ・大学教授、年史編纂のため来室 3回
- ・150年史編纂事務定例打合せ開催

2月

- ・来客 2人
- ・押絵展示 (2/17~4/28)
- ・2016年度第1回歴史資料館検討ワーキンググループ打合せ開催

- ・大学名誉教授 年史関連資料調査 7回
- ・大学教授、年史編纂のため来室 10回
- ・150年史編纂のため、中等部所蔵資料について打合せ
- ・150年史編纂のためのインタビュー 3件
- ・150年史編纂事務定例打合せ開催

3月

- ・来客 6人
- ・2015年度の寄贈資料展示 (3/15~5/13)
- ・『Aoyama Gakuin Archives Letter』15号 発行
- ・大学名誉教授 年史関連資料調査 5回
- ・大学教授、年史編纂のため来室 8回
- ・歴史資料館検討ワーキンググループ活動 勉強会開催 井上哲朗氏 他大学視察・ヒアリング 7校
- ・2016年度第2回歴史資料館検討ワーキンググループ打合せ開催
- ・150年史編纂のためのインタビュー 1件

指定寄付

- ・川俣茂様より、資料センターの活動のために 100,000円

2016年度後期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈

(敬称略)

- 小川久仁子(校友・元職員)より、『少年たちはローマを目指した 絵でたどる天正遣欧使節』NHK Eテレ 2016年8月21日放送 ブルーレイ、DVD各1
- 桜川冴子(校友)より、『桜川冴子歌集』桜川冴子著 2016年5月
- (株)アイビー・シー・エスより、IVYCS通信 -アイビックス通信- 第119~124号 2016年9月~2017年2月
- 渡邊直子(校友)より、DVD 青山学院管弦楽団「楽友会」①1964年米国西海岸親善演奏旅行の記録 ②2014年東日本大震災復興祈念名取市慈善公演 2016年9月発行
- 玉井康夫より、「キリスト者石川和助の経験と思考-石川和助著『喜寿の安登』を読む-」 染井佳男著 2015年『近代入間郡豊岡町の牧師石川和助の思想形成-石川和助が残した「家憲」・「家訓」を素材として-』 山戸壽子著 [2016年]
- 大西直樹(校友の子息)より、『萬葉古今新古今集選』昭和16年3月訂正発行 『芸芸』105号 昭和16年10月 『CONCONE 伴奏付視唱法教科書 73LECONS』中田羽後譯 発行年不明(女子専門部教科書) 『Logic 心理 倫理』向坊先生 家1 内田輝子 [昭和19年](女子専門部ノート) 他教科ノート多数 『戦災孤児救済資金募集』シオン合唱団第1回発表会プログラム ?年3月21日 第64回青山学院創立記念音楽會 招待券 昭和21年11月
- 学校法人弘前学院より、『本多庸一物語』学校法人 弘前学院編 2016年10月
- 手塚光信(校友)より、青山学院創立百周年記念スタンプ 押印官製はがき 1974年11月
- 河崎早春(校友)より、おたんじょう日カード 昭和40年・昭和41年各1点(初等部) ENGLISH FESTIVAL PROGRAM. 1962 Aoyama Gakuin Primary School. Feb.28, 1962 「LET'S SING!」Aoyama Gakuin Primary School. 1963年 「ゆうびんポスト」1年梅組 第1号~2号・2年梅組 第1~7号 「作文のべんきょう」2年 No.1

『子どもの文学』第2集 発行年不明

文集『さくらんぼ』第1~3号 5年桜組 1965~1967年 他文集多数

「Christmas 1971」青山学院高等部クリスマス礼拝 昭和46年12月

「修学旅行DISCOVER KYUSHU」1971年11月8日~13日 第一団 青山学院高等部

「第14回文化祭」~「第17回文化祭」パンフレット 1969年~昭和47年 青山学院高等部 各1部(次頁写真①)

- 南川恵美子(校友)より、女子短期大学卒業記念アルバム 昭和37年3月

青山学院女子短期大学卒業礼拝次第 1962年3月

第12回卒業式次第 女子短期大学 昭和37年3月

- 奥沢佳子(校友)より、女子短期大学卒業記念アルバム 昭和36年3月

- 矢代俊子(校友)より、女子短期大学卒業記念アルバム 昭和28年3月

- 宮澤徹二(関根要八の孫)より、関根要八(元青山学院理事) 晩年の家族写真 撮影年不明

- 国澤晴子(國澤新兵衛の孫)より、Jennie S. Vail 宣教師と生徒の写真(電子複写)

- 青山学院高等部同窓会より、青山学院高等部同窓会報 72号 2016年11月

- 小林和幸(校友、大学文学部教授)小野聡子(校友、職員)より、『近現代 日本選択の瞬間』小林和幸編 2016年11月

- 日本基督教団説谷教会より、『主と歩む百年』歴史資料集 第2号 1907年~2007年 2016年9月

- 雨宮剛(校友・大学名誉教授)より、『早稲田女学生の記録 1939~1948』早稲田大学校友女子同好会編 1979年8月

- 『詩集 ああ夏の日』滝いく子(校友)著 2002年5月

- 『新分野を拓いた白井ゼミの共同研究「太平洋戦争と慶応義塾」の軌跡』荒田茂夫著 2016年3月23日

- 大学文学部英米文学科同窓会より、大学文学部英米文学科同窓会会報『Aoyama Sapience』第36号 2016年12月

- 平賀六郎(校友)より、『人生の卒論 白鳥の歌』英訳・作詞・制作統括:平賀六郎、編曲・作曲・CD制作:熊谷司郎 2016年秋

- 「学生時代」平賀六郎英訳歌詞プリント

- 「人生の卒論 白鳥の歌」英訳・作詞・制作統括:平賀六郎、編曲・作曲・CD制作:熊谷司郎 2016年11月 CD5枚セット

- 米戸一雄(校友)より、内藤新宿地図 東京近傍第8号(第1師管地方迅速測区) 明治30年4月 陸地測量部

- 航空写真 青山キャンパス 年代不明

- 絵葉書 青山学院前青山通 明治40年頃

- 絵葉書 青山学院全景(震災前) 大正8年頃

- 青山学院中等部(中学部)用特殊往復乗車券「渋谷⇄府立高等」東京横濱電鉄 16.7.30の日付印

- 女子短期大学同窓会より、青山学院女子短期大学同窓会総会プログラム 第42回 2016年
- 小代多伽子（小代為重の娘）より、『小代為重 佛國大博覧會畫報 1900年 バリ』小代多伽子著 2017年1月
- 花村紀彦（校友）より、『選挙報道 メディアが支持政党を明らかにする日』小栗泉著 2009年6月
- 青山学院大学グリーンハーモニー合唱団OB会より、グリーンハーモニー OB NEWS No.54 2016年12月
- 播磨和代（校友）より、新聞記事「軍部の弾圧」劔木亨弘著 昭和61年6月17日 西日本新聞朝刊
- 辻雄史より、『開港と近代化する神戸』神戸外国人居留地研究会編 2017年1月
- 緑ヶ丘山岳会より、『エベレスト登頂後のアルピニズムについて』緑ヶ丘山岳会 栗林一路著 1955年1月 緑ヶ丘通信No.113号 2016年12月
- 関田寛雄（校友、大学名誉教授）より、『寮のともしび』『寮のともしび』刊行委員会編 1986年11月
- 滝川秀子（校友、元大学・女子短期大学非常勤講師）より、『一九六〇年代アメリカ留学記 或る女学生から母への書簡集』滝川秀子著 2014年4月
- 菅原研州より、『金子白夢牧師『體驗の宗教』に見える道元禪師觀』菅原研州著 2015年9月 「金子白夢牧師の禪思想」菅原研州著 2016年9月
- 斎藤芳枝（校友）より、女子短期大学1952年入学式当日の写真、1954年卒業式当日の写真、卒業式頃の教職員写真各1枚
- 池八十次より、絵画「青山学院間島記念館」池八十次作 2016年 『平成東京図会 上巻』池八十次著 2014年1月

●他大学・学校 年史・紀要類

購入

- 『REPORT OF THE CONFERENCE OF THE WORLD'S STUDENT CHRISTIAN FEDERATION HELD AT TOKYO,JAPAN APRIL 3-7 1907』NEW YORK CITY 出版年不明
- 『日本大家論集』第28編 博文館 1889
- 『米山梅吉君講演』米山梅吉著 1929
- 『太陽』第2巻13号 米山梅吉の文掲載あり 博文館 1896
- 『初等科教師の友』日本日曜学校協会編纂 教文館 1910（写真2）
- 『かるみざわ』佐藤孝一著 教文館 1912
- 『イエスの社会訓(THE SOCIAL TEACHINGS OF JESUS)』山本彌一郎著 教文館 1926
- 『基督傳百話』アルバタス ビイタルス著 1925
- 『宗教々育指針』アーレン、ケー、ファウスト著 教文館書肆 1913（写真3）
- 『青山女学院手芸部科程表』1897
- 『Kachi-kachi mountain』ダビッド タムソン 譯 T. Hasegawa 1886（写真4）
- 『The old man & the devils』ドクトル ヘボン 譯 T. Hasegawa 1886（写真5）
- 『廢娼資料：第1篇-第14篇(合本)』廓清会婦人矯風会廢娼聯盟 1929.5-1932.5
- 『両刃の剣』鶴飼猛著 教文館 1896
- 『基督教教育』第28号、第29号、第32号 日曜学校局 1934-1935
- 『The hare of Inaba』鮮齋永濯画 T. Hasegawa 1922



写真①第16回文化祭パンフレット(青山学院高等部)



写真②初等科教師の友



写真③宗教々育指針



写真④カチカチ山(縮緬本)



写真⑤こぶとり爺さん(縮緬本)

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。

公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00（入館は16:30まで）
土曜日 ▼9:30～13:00（入館は12:30まで）

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間（いずれも昼休み11:30～12:30）
月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

●休室日

日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他青山学院が定める休日、夏期間間：

一斉休業期間<8/7(月)～8/12(土)>、8/16、8/23、8/30の水曜日及び8/5、8/12、8/19、8/26、9/2、9/9の土曜日

●問い合わせ

TEL 03 (3409) 6742 FAX 03 (3409) 8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。

こちらをご覧ください。

<http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/>

資料センター運営委員

院長（職務上） 梅津 順一
常務理事1名（職務上） 楯 香津美
学院宗教部長（職務上） 大島 力
大学図書館長（職務上） 近藤 泰弘
大学 教員1人 清水 信行
女子短期大学 教員1人 清水 康幸

高中部（高） 教員1人 佐藤 隆一
高中部（中） 教員1人 森田久美子
初等部 教員1人 窪田 靖
幼稚園 教員1人 矢部 尚子
総局長（職務上） 石黒 隆文
資料センター事務長（職務上） 傳農 和子

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
専任 3人
パートタイム 2人
『青山学院150年史』編纂事務：
有期職員 2人
パートタイム 2人
（述べ週5日）

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより 16号

青山学院資料センター編・発行
2017年7月28日発行

